

「はい、配送センターです」

「あの、不在連絡票が入っていたんですけど」

「かしこまりました。不在連絡票がはいっていたのはいつですか？」

「一日です」

「一日ですね。それでは、右上のほうに書かれてあります八桁の番号をお願いします」

「9・1・5・3・4・5・0・9です」

「お名前をお願いしますか？」

「加藤武です」

「加藤武様ですね」

「お届けはいつがよろしいでしょうか？」

「九日の火曜日にお願いたいんですけど・・・」

「かしこまりました」

「時間指定はできますか？」

「申し訳ありません。時間指定はできないんです。午前・午後・夜間の指定となりますが」

「午前ですと、朝何時から何時までの配達になりますか？」

「九時～一時迄の間になります」

「では、午前でお願いします」

「かしこまりました。それでは九日の火曜日、九時～一時の間にお届けいたします。ありがとうございます」

「よろしくお願いします」

電話を切つて数分後、加藤は届け先を変更してもらう為、もう一度配送センターに電話を入れた。

「はい、配送センターです」

「すみません。たった今電話をした加藤といいますが、届け先を変更してもらうことはできますか？」

「ご希望のお届け先ご住所はどちらになりますか？」

「北区です」

「はい、大丈夫です。それではまず、お名前とお客様のご住所をお願いします」

「加藤武です。住所は東京都北区上中里五―九―五十五」

「かしこまりました。ご希望のお届け先ご住所とお電話番号をお願いします」

「東京都北区田端九―八 高木ビル五階です。電話は〇三―五八五―九一二五です」

「こちらは会社になりますか？」

「はい、そうです」

「それでは、会社名と部署名をお願いします」

「株式会社テクニカルネットワークの企画部です」

「はい。それでは、確認させていただきます。ご住所が東京都北区田端九―八 高木ビル五階、電話番号は〇三―五八五―九一二五ですね。会社名は株式会社テクニカルネットワーク、部署名は企画部ですね。それでは加藤様、九日、火曜日の午前九時～一時の間にお届け致します。ありがとうございます」加藤は、

「よろしくお願いします」と言つて電話を切つた。